

事務事業名	総合運動公園施設改修事業				☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課	
施策名	21	生涯学習の推進			所属係	スポーツ振興班	課長名	野本立一	
基本事業名	80	生涯学習・スポーツ施設(環境)の整備			担当者名	坂井竹志	電話番号 (内線)	248-5555 1507	
予算科目	会計 01	款 10	項 06	目 02	事業	法令根拠			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 防球ネットの張替え、防球金網の張替え、クラブハウス床面改修、外灯改修、雨天練習場改修、テニスコート支柱改修、弓道場シャッター改修、パーゴラ解体 (業務の内容) 設計書作成、業者選定、見積依頼書作成、開札事務、契約事務、施工管理、検査、復命書作成、支払事務及び屋外作業(入札会分については開札事務、契約事務は省く) (予算の内訳) ・施設修繕費、工事請負費						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)	0	
							トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・防球ネットの張替え、防球金網の張替え、クラブハウス床面改修、外灯改修、雨天練習場改修、テニスコート支柱改修、弓道場シャッター改修などの発注、支払業務

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

パーゴラ改修

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

総合運動公園改修・修繕箇所

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

使いやすく安全な施設に変わる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

活動する場がある

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 工事・修繕完了箇所数	箇所
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 改修予定箇所数	箇所
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 工事・修繕完了箇所数/改修予定箇所数	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 学習・スポーツに親しむ施設が整っていると思う市民の割合	%
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円			3,458	2,900	23,700	9,500	9,500
			その他	千円							
			一般財源	千円			1,588	2,100	1,300	2,500	2,500
			事業費計 (A)	千円	0	0	5,046	5,000	25,000	12,000	12,000
	人件費		正規職員従事人数	人			3	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間			900	600	700	700	700
			人件費計 (B)	千円	0	0	3,573	2,382	2,779	2,779	2,779
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	8,619	7,382	27,779	14,779	14,779
活動指標			ア箇所			12	2	2	2	14	
			アイウ								
対象指標			ア箇所			30	18	16	14	14	
			アイウ								
成果指標			ア%			0.4	0.111111111	0.125	0.142857143	1	
			アイウ								
上位成果指標			ア%								
			アイウ								

事務事業名	総合運動公園施設改修事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和52年度に旧NTTによって作られ、平成15年9月に旧西合志町が取得したのをきっかけに老朽部分の改修事業がはじまった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

施設の経年劣化が進んでいる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ・防球ネットの破れ箇所から硬球が飛び出し家の屋根に跳んできた。・球場の金網が錆びて危険である。
- ・パーゴラの木の部分腐って落下する危険がある。
- ・弓道場のシャッターが古く、重くてあげられない 等の意見があげられた。
- ・野球場からファールボールが飛んでくる(多目的G・テニスコート)

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒意図の安全快適に利用できることにより、結果の活動する場があるに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒市が管理する施設であり安全面、利便性等を考慮しなければならないので市が行う事業であるとする。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒予算を大幅に増やせば改修率はアップするが、それは望めない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒施設の安全性が保てない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒市の施設なので、市で改修するのが妥当である。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒事業費削減(予算がない)のため職員による作業(パーゴラ解体など)を行なった。職員でできることは行なっているため、これ以上の事業費削減はできない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒職員による作業を行い、事業費削減に取り組んでいる。職員でできないことは、外部に修繕などを依頼している。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒改修事業を理由に、利用者から使用料以上に別途料金を徴収することはできない。

合志市

事務事業名	総合運動公園施設改修事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項